

～大野中生の学び～

- 学習のめあてが分かりやすく、日常生活と結び付いた学びになっている。
- 生徒が学習のゴールを意識しながら主体的に取り組んでいる。
- 落ち着いた雰囲気の中で学習が進められている。



7月2日、第2回学校運営協議会を開催しました。今回は、学校評価計画について説明するとともに、学校の様子や地域貢献活動（ボランティア）への参加状況、今後の活動予定について報告を行いました。また、今後予定されている学校行事についても意見交換を行い、学校・家庭・地域が連携した教育活動の充実について協議しました。

委員の皆様には授業参観もしていただき、生徒たちの学習の様子を見ていただきながら、多くのご意見やご助言をいただきました。また、福岡教育大学教授の伊藤克治先生からは、「中学校では学習内容が抽象的になり、小学校から中学校への接続期に学力が伸び悩む傾向があります。しかし、大野中学校では小学校で学習した知識や技能を活用する必要性を感じられる授業が行われており、生徒の学力が継続して伸びている要因の一つでは

多様な学びと未来を見据えた教育活動

生徒一人一人の多様性や大切にしている取組についても話題となりました。

本校では、生徒が自分の体調や状況に応じて制服を選択できる環境づくりを進めています。委員の皆様からは、「多様性を尊重しながらも、学校全体の一体感が保たれている」との評価をいただきました。

また、授業ではタブレットなどのデジタル機器を活用する一方で、技術科では工具を使った製作活動など実体験を大切にした学習も行っています。

委員の皆様からは、「アナログとデジタルのよさを上手に組み合わせた学びが実現されている」との意見が出されました。

大野の杜

大野城市立
大野中学校
学校運営協議会
通信

第2号

R8.7.16 発行

文責
地域連携推進担当
横光 雄介

授業参観から見えた大野中生の学び

ではないでしょうか」とのご助言をいただきました。

これからも「なぜ学ぶのか」を大切にしながら、生徒が主体的に学ぶ授業づくりを進めていきます。

委員より

- 実体験を伴う学びは今後も大切にしてほしい。
- 日頃からデジタル機器に慣れ親しむことがこれからの時代には必要である。
- 教室がやや狭く感じられたため、学習環境の改善についても検討してほしい。
- 夏休みには地域に出て、多くの人との交流や体験活動を通して、「リアル」な学びを大切にしてほしい。



伊藤先生より



福岡教育大学
教授 伊藤克治 先生

- 学習のめあてが現実的で分かりやすく、日常生活と結び付いた学びが実現されています。生徒が学習のゴールを意識しながら主体的に取り組んでいる姿も見られました。
- 小学校で学んだ知識や技能を活用する授業が行われており、中学校段階でも学力が継続して伸びている要因の一つになっていると感じます。
- 生成 AI やデジタル機器を活用する際は、情報を批判的に捉え、実体験を伴う学びも大切にしてほしいと思います。

議事報告

- (1) 学校評価計画について
- (2) 学校の様子について
- (3) 地域連携推進活動について
- (4) 今後の学校行事について

(1) 学校評価計画については、本年度の重点目標や成果指標について説明し、学力向上や探究活動「志タイム」、地域貢献活動、学校生活満足度の向上に向けた取組について確認しました。

(2) 学校の様子については、体育祭や学力調査、「志タイム」の開始など、これまでの教育活動の様子を報告し、生徒の学習や学校生活の状況について共有しました。

(3) 地域連携推進活動については、地域貢献活動（ボランティア）の実施状況や今後の活動予定について報告し、地域との連携の在り方について意見交換を行いました。

(4) 今後の学校行事については、夏季休業中の活動や2学期の主な学校行事について確認し、生徒の成長につながる教育活動の充実に向けて協議しました。



次回連絡

第3回学校運営協議会

令和8年10月23日（金）10:00～11:30

於 本校多目的室